

第1節 共通型要約

コメントにあつては次のように表示している。例えば、図表2-2-1 (p.126参照)「シラバスの授業選択における有用性」では、「非常に役立った」(14%)、「かなり役立った」(44%)、「どちらともいえない」(31%)、「あまり役立たなかった」(9%)、「まったく役立たなかった」(2%)となっている。この場合、「役立った」「どちらともいえない」「役立たなかった」の3区分では、「役立った」(14+44=58%)、「どちらともいえない」(31%)、「役立たなかった」(9+2=11%)としている。また、「役立った」が、昼間コース(58%)、夜間主コース(53%)のときには、「役立った」(58%、53%)と表示している。

1 学生アンケート調査の回収状況と学年別(入学年度別)構成

図表2-1は、学生アンケート調査の回収状況と学年別構成を示したものである。この図表によれば、回収率は昼間コースでは52%、夜間主コースでは35%である。また、回収率を学年別に昼間コースと夜間主コースで比較すると、1年(昼間72%、夜間主69%)、2年(75%、44%)、3年(36%、30%)、4年(38%、8%)である。夜間主コースもほぼ同じ傾向にあるが、学年が進むにつれて非常に悪くなっている。他方、アンケート調査の回収状況を学年別構成で昼間コースと夜間主コースを比較すると、昼間コースでは1-2年は30%台、3-4年は10%台であるのに対して、夜間主コースでは1年は47%、2年は30%である。ちなみに、平成10年度(以下「前年」という。)の学年別構成をみると、昼間コースでは1年は20%、2-3年は30%位であるのに対して、夜間主コースでは1年は48%、2年は22%である。

以上のようなアンケート調査の学年別構成は、アンケート調査結果に大きな影響を及ぼしていることに注意していただきたい。

2 授業全体に関する内容

2-1 シラバスの有用性

図表2-2-1は、シラバスの授業選択における有用性を示したものである。この図表で、「役立った」「役立たなかった」の2区分にわけて昼間コースと夜間主コースを比較すると、「役立った」(昼間58%、夜間主53%)は両コースとも50%台であるが、昼間コースのほうが少し高くなっている。それに対して、「役立たなかった」(10%、15%)は夜間主コースのほうが少し高くなっている。

昼間コースにおいて、「役立った」の割合が大きい順に並べてみると、2年(67%)、3年(58%)、1年(57%)、4年(46%)である。ちなみに前年の順位は、1年(75%)、3年(72%)、2年(71%)、4年(42%)であることからみれば、本年の評価は非常に下がっている。また、「役立たなかった」

の割合が大きい順に並べてみると、4年（14%）、1年（10%）、3年（10%）、2年（8%）である。他方、夜間主コースで「役立った」の割合が大きい順に並べてみると、2年（58%）、4年（56%）、3年（53%）、1年（50%）である。また、「役立たなかった」の割合が大きい順に並べてみると、1年（21%）、4年（11%）、3年（10%）、4年（8%）である。

以上の結果は、前年よりも非常に悪くなっているため、教師はシラバスの有用性を高める工夫をすべきであろう。

2-2 授業時間割の編成

図表2-2-2は、授業時間割編成の適切さを示したものである。この図表で、「適切であった」「不適切であった」の2区分を分けて昼間コースと夜間主コースを比較すると、昼間コース（適切26%、不適切32%）、夜間主コース（23%、42%）である。つまり、「適切であった」（昼間26%、夜間主23%）は両コースとも20%台にとどまっている。それに対して、「どちらともいえない」（42%、35%）、「不適切であった」（32%、42%）は両コースとも非常に高くなっている。

昼間コースで「適切であった」「不適切であった」の2区分にわけて学年別に比較すると、1-2年では「不適切であった」が「適切であった」よりも大きく30%台である。また、「適切であった」の割合が大きい順に並べてみると、3年（33%）、2年（26%）、1年（25%）、4年（25%）と学年が進むにつれて高くなっている。さらに、「不適切であった」の割合が大きい順に並べてみると、2年（38%）、1年（32%）、3年（30%）、4年（23%）である。つまり、「不適切であった」は、1-3年で30%位にも達しているのである。他方、夜間主コースで「適切であった」の割合が大きい順に並べてみると、1年（29%）、3年（27%）、2年（15%）、4年（11%）でこれまた非常に低くなっている。さらに、「不適切であった」の割合が大きい順に並べてみると、2年（69%）、3年（40%）、4年（33%）、1年（27%）である。これらの結果をみると、不適切の割合が非常に高く69%にも達している学年があるのは驚くべきことである。

2-3 授業時間割で改善してほしい点（自由記載）

先ほどの分析結果で明らかのように、昼間コース、夜間主コースとも授業時間割の編成で「不適切であった」（昼間32%、夜間主42%）が非常に高くなっている。そこで、学生に授業時間割で不適切な理由をたずねたところ、意見2-3（p.57参照）のとおりである。そのなかには改善すべき点もあるように思われる。

2-4 カリキュラムの適切さ

図表2-2-4は、カリキュラム（卒業所要単位、開講科目、語学科目と専門科目のバランス）の適切さを示したものである。この図表で、「適切である」「不適切である」の2区分にわけて昼間コースと夜間主コースを比較すると、「適切である」（昼間30%、夜間主23%）は両コースとも非常に低くなっ

ているのに対して、「どちらともいえない」(43%、43%)は、非常に高くなっている。昼間コースにおいて、「適切である」は学年が進むにつれて少しずつ低くなっている。また、2-3年では「適切である」よりも「不適切である」が多くなっている。他方、夜間主コースについても同じ方法で学年別に比較すると、「適切である」は2年で17%、1・3年で20%台であるのに対して、「不適切である」は、2年(44%)で非常に高くなっている。

2-5 カリキュラム(卒業所要単位、開講科目、語学科目と専門科目のバランス)で改善してほしい点(自由記載)

先ほどの分析結果で明らかのように、昼間コース、夜間主コースともカリキュラムで「不適切である」(昼間27%、夜間主35%)は非常に高く、また、学年別にみてもしかりである。そこで、学生にカリキュラムで不適切な理由をたずねたところ、意見2-5(p.60参照)のとおりである。そのなかには改善すべき点もあるように思われる。

2-6 年間行事予定

図表2-2-6は、年間行事予定の適切さを示したものである。この図表で、「適切である」「不適切である」の2区分にわけて昼間コースと夜間主コースを比較すると、「適切である」(昼間34%、夜間主34%)はともに34%であるのに対して、「不適切である」(29%、21%)は、20%台で前年より良くなっている。ちなみに前年は、「適切である」(17%、19%)、「不適切である」(54%、47%)であることからみれば、本年の年間行事予定はある程度改善されたものと思われる。昼間コースにおいて、各学年別にみても「適切である」は10%台から30%台に増加し、「不適切である」は50%台から30%台に下がっている。他方、夜間主コースについて、昼間コースとほぼ同じ傾向を示し前年より良くなっている。

以上のことから明らかのように、本年の年間行事予定は昼間コース、夜間主コースとも前年よりも良くなっているが、それでも20%台が不適切であるとしている。そこで、その原因を調べる必要がある。

2-7 年間行事予定で改善してほしい点(自由記載)

先ほどの分析結果で明らかのように、昼間コース、夜間主コースとも年間行事予定は前年より改善されているが、それでも「不適切である」(昼間29%、夜間主21%)が非常に高くなっている。そこで、学生に年間行事予定で不適切な理由をたずねたところ、意見2-7(p.63参照)のとおりである。そのなかには改善すべき点もあるように思われる。

2-8 成績評価の適切さ

図表2-2-8は、成績評価の適切さを示したものである。この図表で、「適切であった」「どちらとも

いえない」「不適切であった」の3区分にわけて昼間コースと夜間主コースを比較すると、「適切であった」（昼間39%、夜間主24%）は両コースともそれほど高くはなっていない。それに対して、「どちらともいえない」（43%、55%）は非常に高くなっている。また、「不適切であった」（18%、21%）は夜間主コースのほうが高くなっている。ちなみに前年は、「適切であった」（41%、35%）、「不適切であった」（18%、12%）である。

昼間コースにおいて、「適切であった」の割合が大きい順に並べてみると、4年（46%）、2年（44%）、3年（40%）で40%台である。また、「不適切であった」の割合が大きい順に並べてみると、3年（23%）、4年（18%）、2年（17%）で思っていたほど評価が低くないことにほっとしている。他方、夜間主コースについても同じ方法で、「適切であった」の割合が大きい順に並べてみると、2年（36%）、3年（23%）、4年（22%）である。ここで、3-4年が20%台と非常に低い評価であるのは気にかかる場所である。また、「不適切であった」の割合が大きい順に並べてみると、3年（33%）、2年（23%）、4年（11%）である。

2-9 成績評価で改善してほしい点（自由記載）

先ほどの分析結果では、昼間コース、夜間主コースとも「適切であった」（昼間39%、夜間主24%）はそれほど高くはなく、「どちらともいえない」（43%、55%）は非常に高くなっている。そこで、学生に成績評価で改善してほしい点をたずねたところ、意見2-9（p.65参照）のとおりである。そのなかには教官にも改善すべき点があるように思われる。

2-10 学生の受講態度

図表2-2-10は、学生の受講態度の熱心さを示したものである。この図表で、「熱心であった」「どちらともいえない」「熱心でなかった」の3区分にわけて昼間コースと夜間主コースを比較すると、「熱心であった」（昼間17%、夜間主23%）は両コースとも非常に低く、特に昼間コースでは17%と驚くべき数値である。それにともない、「どちらともいえない」（43%、42%）は比較的高くなっている。また、「熱心でなかった」（40%、34%）は昼間コースが非常に高くなっている。

昼間コースにおいて、「熱心であった」の割合が大きい順に並べてみると、3年（21%）、2年（19%）、4年（16%）、1年（15%）である。また、「熱心でなかった」の割合が大きい順に並べてみると、4年（45%）、1年（44%）、3年（40%）、2年（35%）である。つまり、各学年をみても3-40%台であり、この数値は驚くばかりである。他方、夜間主コースにおいて、「熱心であった」の割合が大きい順に並べてみると、2年（31%）、1年（25%）、4年（22%）、3年（7%）である。

2-11 学生の受講態度で改善すべき点（自由記載）

先ほどの分析結果では、学生の受講態度で「熱心であった」（昼間17%、夜間主23%）は両コースとも非常に低く、特に昼間コースの17%は驚くべき数値である。また、「熱心でなかった」（40%、

34%)は昼間コースで40%にもなっている。この数値は、学生の自己反省をこめた率直な意見であるように見受けられる。そこで、学生の受講態度で改善してほしい点をたずねたところ、意見2-11(p.69参照)のとおりである。そのなかには教官にも改善すべき点があるように思われる。

2-12 望ましい教師像

図表2-2-12は、望ましい教師像を示したものである。この図表で、昼間コースと夜間主コースを比較すると、両コースとも同じ傾向を示している。つまり、1位「わかりやすい講義」(昼間51%、夜間主50%)、2位「学問に対する関心を高める」(40%、39%)、3位「熱心に講義」(7%、9%)である。また、昼間コースを先ほどと同じように、学年別に順位をとっても全く同じであり、1位「わかりやすい講義」(1年48%、2年50%、3年56%、4年52%)、2位「学問に対する関心を高める」(41%、42%、37%、36%)、3位「熱心に講義」(6%、6%、6%、8%)である。

ここで注目すべきことは、「熱心に講義」が非常に低いことである。この点を検討するには、「望ましい教師像」の選択にあたって一つ選択という回答方式を変更する必要があるように思われる。

2-13 望ましい教師の割合

図表2-2-13は、望ましい教師の割合を示したものである。この図表で、「80%以上」「50%位」「30%以下」の3区分にわけて昼間コースと夜間主コースを比較すると、望ましい教師の割合が「80%以上」(昼間11%、夜間主13%)は、両コースとも10%台と非常に低くなっている。また、「30%以下」(54%、53%)では、50%台と非常に大きな数値になっている。昼間コースにおいて、「80%以上」の割合は、10%台と非常に低くなっている。他方、夜間主コースにおいて、「80%以上」の割合は、昼間コースとほとんど同じ傾向を示している。

以上のように、望ましい教師は、「80%以上」は10%台、「30%以下」は40%台と予想していたよりも厳しい結果になっている。この評価結果について、種々の見解があるところであろう。しかし、教官は、学生意見に率直に耳を傾け改善すべきことは進んで実行してもらいたいものである。

2-14 教室の広さ、マイク等の使い方

図表2-2-14は、教室の広さ、マイク等の使い方を示したものである。この図表で、「適切であった」「適切でなかった」の2区分にわけて昼間コースと夜間主コースを比較すると、「適切であった」(昼間31%、夜間主37%)は両コースとも30%台、「適切でなかった」(35%、36%)ともに30%台で非常に高くなっている。また、先ほどと同じように、昼間コース、夜間主コースを学年別に比較してみても、ほぼ同じ結果になっている。

教室、マイク等の使い方「適切でなかった」例はp.72を参照願いたい。

2-15 教室の設備で改善してほしい点(自由記載)

意見2-15は、教室の設備で改善してほしい点を示したものである。そのなかのいくつかを示すと、

意見2-15（p.73参照）のとおりである。

3 ゼミナール

3-1 ゼミナールの所属

図表2-3-1は、学生のゼミナール所属を示したものである。この図表で、「ゼミ所属している」「ノンゼミである」「応募資格がない」の3区分にわけて昼間コースと夜間主コースを比較すると、昼間コース（所属69%、ノンゼミ34%、資格外27%）、夜間主コース（41%、9%、50%）である。この結果は、1年が未だゼミの応募資格がないので適切であるとはいえない。そこで、次に学年別に検討してみよう。昼間コースを「ゼミ所属している」「ノンゼミである」の2区分にわけて学年別に比較すると、2年（所属95%、ノンゼミ34%）、3年（95%、5%）、4年（97%、3%）である。また、夜間主コースも同じように、2区分にわけて学年別に比較すると、2年（64%、16%）、3年（87%、10%）、4年（88%、12%）である。

「ゼミ所属している」は、昼間コース（2年95%、3年95%）では非常に高い数値を示しているのに対して、夜間主コース（64%、87%）では2年が非常に低くなっている。

3-2-1 ゼミナールへの所属希望

図表2-3-2-1は、学生のゼミナール所属希望（現在まだ応募資格はない）を示したものである。この図表で、「ゼミ所属したい」「ゼミ所属したくない」「未だわからない」の3区分にわけて昼間コースと夜間主コースを比較すると、昼間コース（したい76%、したくない5%、わからない19%）、夜間主コース（62%、8%、30%）である。昼間コースにおいては、1年（78%、3%、19%）、2年（61%、17%、22%）である。また、夜間主コースにおいては、1年（65%、7%、28%）、2年（50%、14%、36%）である。「ゼミ所属」を希望する者は、昼間コース（1年78%、2年61%）では比較的高い数値を示しているのに対して、夜間主コース（65%、50%）で、2年（50%）はかなり低くなっている。

3-2-2 ゼミナール所属の希望理由（現在まだ応募資格はない）（複数回答可）

図表2-3-2-2は、ゼミ所属の希望理由を示したものである。この図表で、昼間コースと夜間主コースを順位の高いものから並べてみると、1位「大学に入ったからにはゼミをとるべきだ」（昼間37%、夜間主36%）、2位「必要な単位を取るには講義より良い」（25%、29%）、3位「興味ある科目のゼミがある」（22%、16%）である。

3-3-1 ノンゼミ生になった理由（複数回答可）

図表2-3-3-1は、ノンゼミ生になった理由を示したものである。この図表で、昼間コースと夜間主コースを順位の高いものから並べてみると、昼間コースでは、1位「希望科目のゼミがなかった」（32%）、2位「指導を受けたい教師がいなかった」（18%）、3位「希望ゼミに入れなかった」（14%）

である。また、夜間主コースでは、1位「希望科目のゼミがなかった」「指導を受けたい教師がいなかった」「講義を取る方が楽だ」(21%)である。ここで注目すべきことは、「卒論を書きたくない」(昼間11%、夜間主16%)が10%台もいることである。

3-3-2 ノンゼミ生の良否

図表2-3-3-2は、ノンゼミ生の良否を示したものである。この図表で、昼間コースと夜間主コースを順位の高いものから並べてみると、両コースはほとんど同じで、1位「よく分からない」(昼間52%、夜間主67%)、2位「ノンゼミ生で良かった」「ゼミ所属が良かった」(24%、17%)である。

3-4 ゼミナール所属者

3-4-1 ゼミナールの希望理由(複数回答可)

図表2-3-4-1は、ゼミナールの希望理由を示したものである。この図表で、昼間コースと夜間主コースを順位の高いものから並べてみると、両コースは全く同じ順位である。1位「大学ではゼミを取るべきだ」(昼間40%、夜間主37%)、2位「興味ある科目のゼミがある」(25%、24%)、3位は「講義を取るより楽である」(20%、22%)である。

昼間コースで学年別に順位をみると、2-4年とも全く同じ順位である。1位「大学ではゼミを取るべきだ」(2年38%、3年42%、4年42%)、2位「興味ある科目のゼミ」(26%、24%、24%)、3位は「講義を取るより楽である」(20%、22%、20%)である。他方、夜間主コースで学年別に順位をみると、昼間コースとほぼ同じである。つまり、ゼミの希望理由は、「大学ではゼミを取るべきだ」、「興味ある科目のゼミ」そして「講義を取るより楽である」に要約することができる。

3-4-2 所属ゼミナールの希望順位

図表2-3-4-2は、ゼミナールの希望順位を示したものである。この図表で、昼間コースと夜間主コースを比較すると、「第一順位」(昼間99.7%、夜間主97.8%)、「第二順位等」(0.3%、2.2%)である。つまり、「第一順位」の数値は、他の数値と比較しても少し高いような気がする。

3-4-3 所属ゼミナールの満足度

図表2-3-4-3は、所属ゼミナールの満足度を示したものである。この図表で、「満足している」「どちらともいえない」「不満である」の3区分にわけて昼間コースと夜間主コースを比較すると、「満足している」(昼間62%、夜間主51%)は昼間コースでは62%であるのに対して、夜間主コースでは51%である。それに対して、「不満である」(9%、12%)で予想したよりも低くなっている。昼間コースで3区分にわけて2-4年を比較すると、「満足している」(2年55%、3年72%、4年67%)、「どちらともいえない」(36%、18%、27%)、「不満である」(10%、11%、7%)である。他方、夜間主コースで3区分にわけて2-4年を比較すると、「満足している」(2年40%、3年65%、4年20%)、「どち

らともいえない」(50%、19%、80%)、「不満である」(10%、15%、0%)である。

3-4-4 所属ゼミナールの満足・不満足な理由 (自由記載)

先の結果で明らかのように、所属ゼミに対して「満足している」(昼間62%、夜間主 51%)、「不満である」(9%、12%)の数値であり、その理由を示したのが意見3-4-4 (p.77参照)である。

4 その他、授業・ゼミ等について改善してほしい点・良い点等 (自由記載) (p.80参照)

5 教師像と成績評価・望ましい教師像の割合の関係

5-1 教師像と成績評価の関係

図表2-5-1は、教師像と成績評価の関係を示したものである。この図表で、成績評価を「適切であった」「どちらともいえない」「不適切であった」の3区分にわけて、教師像と成績評価の関係で、その理由の順位の高いものを前年と比較しながら並べてみよう。昼間コースにおいて、成績評価が「適切であった」は、1位「熱心に講義」(本年51%、前年28%)、2位「時間どうりに講義」(42%、29%)、3位「わかりやすい講義」(40%、20%)、4位「学問に対する関心」(37%、16%)である。かかる順位は、前年とほとんど同じである。しかしここで注目すべきことは、ほとんどの項目が前年よりも20ポイント位良くなっていることである。また、成績評価が「どちらともいえない」は、1位「時間どうりに講義」(本年50%、前年14%)、2位「わかりやすい講義」(43%、48%)、3位「学問に対する関心」(42%、42%)、4位「熱心に講義」(32%、36%)である。つまり、「時間どうりに講義」は前年より36ポイント高くなっているが、他の項目はほぼ同じである。さらに、成績評価が「不適切であった」は、1位「学問に対する関心」(本年21%、前年42%)、2位「熱心に講義」(17%、36%)、3位「わかりやすい講義」(16%、32%)、4位「時間どうりに講義」(8%、57%)である。つまり、すべての項目が前年より低下しており、そのうちでも「時間どうりに講義」は49ポイントも低くなっている。

夜間主コースにおいても先ほどと同じように並べてみよう。つまり、成績評価が「適切であった」は、1位「熱心に講義」(本年50%、前年42%)、2位「わかりやすい講義」(23%、33%)、3位「学問に対する関心」(22%、31%)である。ここでは、「熱心に講義」は8ポイント良くなっているのに対して、「わかりやすい講義」は10ポイント、「学問に対する関心」は9ポイント悪くなっている。また、成績評価が「どちらともいえない」は、1位「学問に対する関心」(本年63%、前年51%)、2位「わかりやすい講義」(52%、53%)、3位「熱心に講義」(42%、25%)である。つまり、「学問に対する関心」は12ポイント、「熱心に講義」は17ポイント良くなっている。

以上の結果をみると、成績評価の3区分毎の教師像の選択指標は非常に異なっているという興味深い事実が明らかになっている。

5-2 教師像と望ましい教師像の割合の関係

図表2-5-2は、教師像と望ましい教師像の割合の関係を示したものである。この図表で、望ましい教師像の割合を「50%以上」「30%以下」の2区分にわけて、昼間コースと夜間主コースで比較すると、昼間コース（「50%以上」47%、「30%以下」53%）、夜間主コース（47%、53%）であり、両コースとも全く同じである。また、望ましい教師像の割合が「50%以上」を前年と比較しながらみると、昼間コース（本年47%、前年56%）、夜間主コース（47%、62%）で前年より昼間コースでは9ポイント、夜間主コースでは15ポイント悪くなっている。

他方、教師像と望ましい教師像の割合の関係で、その理由の順位の高いものを前年と比較しながら並べてみよう。つまり、昼間コースでは望ましい教師像の割合が「50%以上」の理由は、1位「時間どおりに講義」（本年54%、前年57%）、2位「熱心に講義」（53%、65%）、3位「わかりやすい講義」（50%、55%）、4位「学問に対する関心」（41%、54%）である。かかる順位は前年とほぼ同じ順位であるが、しかし、すべての項目で前年よりも悪くなっている。また、夜間主コースについても先ほどと同じように比較してみよう。「50%以上」の理由では、1位「熱心に講義」（本年67%、前年75%）、2位「時間どおりに講義」（50%、50%）、3位「わかりやすい講義」（48%、61%）、4位「学問に対する関心」（40%、63%）である。つまり、かかる項目のほとんどが前年よりも悪くなり、特に「学問に対する関心」は23ポイントも低下している。

6 学科別の成績評価・ゼミナール所属

6-1 学科別の成績評価

図表2-6-1は、学科別の成績評価を示したものである。この図表で、成績評価を「適切であった」「どちらともいえない」「不適切であった」の3区分にわけて、成績評価の適切さを昼間コースと夜間主コースで比較すると、昼間コース（適切39%、どちらでもない42%、不適切19%）、夜間主コース（24%、55%、21%）である。成績評価が「適切であった」を前年と比較すると、昼間コース（本年39%、前年41%）、夜間主コース（24%、35%）で前年よりも悪くなっている。

他方、成績評価を学科別に比較すると、昼間コースでは、経済学科（適切34%、どちらでもない47%、不適切19%）、商学科（37%、40%、23%）、企業法学科（41%、43%、16%）、社会情報学科（44%、42%、14%）である。また、成績評価が「適切であった」を前年と比較すると、経済学科（本年34%、前年42%）、商学科（37%、42%）、企業法学科（41%、36%）、社会情報学科（44%、48%）である。前年との比較では、企業法学科が5ポイント良くなっているのに対して、他の学科は悪くなっている。また、夜間主コースにおいても、先ほどと同じように比較してみよう。つまり、経済学科（適切11%、どちらでもない68%、不適切21%）、商学科（32%、48%、20%）、企業法学科（24%、48%、28%）、社会情報学科（23%、60%、17%）である。また、成績評価が「適切であった」を前年と比較すると、経済学科（本年11%、前年16%）、商学科（32%、42%）、企業法学科（24%、32%）、社会情報学科（23%、36%）である。ここで前年との比較では、経済学科は10%

台と非常に悪く、また、他の学科も10ポイント位悪くなっており、特に社会情報学科は13ポイントも低下している。

6-2 学科別のゼミナール所属状況

図表2-6-2は、学科別のゼミナール所属の状況を示したものである。この図表で、「ゼミ所属」「ノンゼミ」の2区分にわけて、昼間コースと夜間主コースを比較すると、昼間コース（所属95%、ノンゼミ5%）、夜間主コース（82%、18%）である。「ゼミ所属」を前年と比較すると、昼間コース（本年95%、前年96%）、夜間主コース（82%、88%）である。つまり、「ゼミ所属」は昼間コースで90%台、夜間主コースで80%台であり、どちらも前年より少し低下している。

他方、昼間コースにおいて、ゼミ所属の高い方から前年と比較しながら並べてみよう。つまり、企業法学科（本年97%、前年97%）、商学科（96%、98%）、経済学科（94%、90%）、社会情報学科（91%、93%）である。また、夜間主コースでも同じように並べてみると、企業法学科（本年93%、前年69%）、商学科（90%、95%）、経済学科（87%、67%）、社会情報学科（22%、94%）である。つまり、両コースともゼミ所属の一番高いのは企業法学科、一番低いのは社会情報学科である。

ここで注目すべきことは、ゼミ所属で夜間主コースが低くなっており、また、学科別では社会情報学科は低くなっているが、その理由を検討する必要があるであろう。

6-3 学科別のゼミナールの満足度

図表2-6-3は、学科別のゼミナールの満足度を示したものである。この図表で、「満足している」「どちらともいえない」「不満である」の3区分にわけて、昼間コースと夜間主コースを比較すると、昼間コース（満足62%、どちらでもない29%、不満9%）、夜間主コース（51%、37%、12%）である。ゼミに「満足している」を前年と比較すると、昼間コース（本年62%、前年70%）、夜間主コース（51%、48%）である。ゼミの満足度は、夜間主コースで50%台と非常に低く、また、前年と比較しても昼間コースで8ポイントも悪化している。

他方、ゼミの満足度を学科別に比較して、満足度の高い方から前年と比較しながら並べてみよう。つまり、昼間コースでは、商学科（本年64%、前年70%）、社会情報学科（62%、66%）、経済学科（61%、68%）、企業法学科（59%、73%）である。ゼミの満足度は、すべての学科で前年より悪化しており、特に企業法学科では14ポイントも低下している。また、夜間主コースについてもゼミの満足度の高い方から並べてみると、商学科（本年66%、前年50%）、社会情報学科（50%、47%）、経済学科（33%、25%）、企業法学科（27%、56%）で、この順位は昼間コースと全く同じである。また、ゼミの満足度は、学科毎に著しく差があり、経済学科で8ポイント良くなっているのに対して、企業法学科は19ポイントも悪くなっている。

以上の結果をみると、ゼミで「満足している」は昼間コースで62%、夜間主コースで51%、また、学科毎にみても予想していたよりも厳しい評価である。その理由は、すでに 3-4-4ゼミナールの満

足・不満足な理由（自由記載）（p.77参照）にあるので、各教官は学生の意見を参照してゼミの満足度を上げるように努力してもらいたい。

第2節 個別型要約

1 学生アンケート調査の実施状況と学年別構成

1-1 学生アンケート調査の実施状況

図表3-1-1は、講義・語学科目における学生アンケート調査の実施状況を示したものである。この図表で、前年と比較しながらみてみよう。実施率では昼間コース（本年74%、前年81%）、夜間主コース（68%、78%）と前年より低くなっている。また実施率の高い順に並べてみると、言語センター（本年81%、前年81%）、企業法学科（77%、91%）、商学科（67%、81%）、一般教育（66%、84%）、社会情報学科（63%、70%）である。つまり、実施率は、商学科、一般教育そして社会情報学科では60%台と非常に低く、また前年と比較しても著しく低下している。

他方、回収率を前年と比較しながらみてみよう。回収率は昼間コース（本年24%、前年28%）、夜間主コース（30%、40%）で前年より低くなっている。また、回収率の高い順に並べてみると、言語センター（58%、53%）、社会情報学科（20%、31%）、一般教育（18%、25%）、商学科（17%、23%）、企業法学科（16%、20%）である。つまり、回収率は、言語センターを除いてすべて低下し、10%台と著しく低くなっている。

学生アンケート調査は、原則としてすべての教官が実施することになっている。しかし、実施率および回収率が上記のように低くなっている。言語センターでは回収率（58%）と非常に高くなっているが、この場合、履修意思のない者が少なく、また、出席をとっているという事情があるものと思われる。このような事情を考慮すれば、言語センターでも高い回収率であるとはいえないであろう。さらに、回収率を授業科目別にみると、例えば、前年において、A科目 回収率 8%（履修者数285、回収数23）、B科目 回収率 9%（履修者数598、回収数31）、C科目 回収率 9%（履修者数265、回収数24）、D科目 回収率 13%（履修者数534、回収数70）、E科目 回収率 13%（履修者数292、回収数38）である。

以上のような結果をみると、学生アンケート調査の実施・回収方法を再検討する必要があるが、それにもまして、各教官が学生アンケート調査の意味を再認識し実施率および回収率を上げる努力をしてもらいたいものである。

1-2 学生アンケート調査の学年別構成

図表3-1-2は、講義・語学・実技科目における学生アンケート調査の学年別構成を示したものである。昼間コースをみると、講義科目は1年（本年45%、前年43%）、2年（26%、20%）、3年（20%、31%）と比較的分散している。語学科目では1年（50%、55%）、2年（39%、36%）、実技科目では1年（62%、72%）、2年（35%、26%）と1年に集中している。他方、昼間コースを学科等別に比較すると、商学科は2年（本年41%、前年26%）、企業法学科は3年（48%、49%）、社会情報学科は1年（47%、29%）、一般教育は1年（64%、78%）に比較的集中している。このような学生アンケート調査の学年別構成は、アンケート調査結果に大きな影響を及ぼしていることに注意していただきたい。

2 講義の選択理由

図表3-2は、講義・語学・実技科目における講義の選択理由を示したものである。この図表で、講義の選択理由を前年と比較しながら順位の高いものから並べてみると、昼間コースでは、語学科目は「必修・選択必修科目」（本年82％、前年81％）、実技科目は「シラバスを読み興味」（65％、63％）、講義科目は「シラバスを読み興味」（34％、29％）、「必修・選択必修科目」（29％、34％）、「時間割の関係」（20％、16％）である。他方、昼間コースを学科等別にみると、商学科は「必修・選択必修科目」（本年38％、前年43％）、「専門の勉強」（30％、30％）、企業法学科は「必修・選択必修科目」（40％、41％）、「専門の勉強」（35％、33％）、社会情報学科は「必修・選択必修科目」（37％、47％）、「時間割の関係」（23％、9％）、「シラバスを読み興味」（21％、21％）である。一般教育は「シラバスを読み興味」（54％、54％）、「時間割の関係」（26％、28％）である。

講義の選択理由「その他」は自由記載になっている。そのなかで勉学に対する積極的な意見をあらわしたのものとして、「専門の勉強をするうえであらゆる基礎知識を身につけたかったから」がある。また、「単位がとりやすそうだった」は、多数の学生があげている意見であり、現在の学生の率直な気持でもあると思われるので、平成12年度の学生アンケートではこの質問項目を追加することになっている。

3 学生の学習態度

3-1 講義の出席状況

図表3-3-1は、講義・語学・実技科目における学生の出席状況を示したものである。この図表で、講義への出席率「80％以上」と「50％以下」の2区分にわけて昼間コースと夜間主コースを比較する。講義への出席率「80％以上」を前年と比較しながら順位の高いものから並べてみると、昼間コース（本年88％、前年82％）、夜間主コース（87％、82％）と両コースとも非常に高くなっている。また、昼間コースを科目別にみると、講義科目（本年84％、前年77％）、語学科目（95％、93％）、実技科目（98％、97％）で非常に高くなっている。他方、昼間コースを学科等別に前年と比較しながら、出席率「80％以上」の割合の高い順に並べてみると、企業法学科（本年74％、前年78％）、商学科（67％、77％）、社会情報学科（55％、70％）、一般教育（17％、83％）である。ここで注意すべきことは、社会情報学科で15ポイント、特に一般教育で65ポイントの異常な低下を見せていることである。

さて、語学科目や実技科目は出席をとることが多いので、出席率が高いのは理解できる。しかし、講義科目でこのような高い出席率を示しているのは、教官の実感とはかけ離れているように思われる。しかし、学生アンケートは、その実施時に出席した者が回答し提出したものと考えることができるならば、このような高い出席率になったことも理解できるであろう。ここでは、出席率を単純に比較しているが、これはアンケートの実施率や回収率と相互依存関係にあることを付記しておきたい。

3-2 授業の欠席理由

図表3-3-2は、講義・語学・実技科目における授業の欠席理由を示したものである。この図表で、昼間コースと夜間主コースで、「欠席理由」の割合の高い順に並べてみよう。授業の「欠席理由」を前年と比較しながら順位の高いものから並べてみると、昼間コースでは「自己の怠惰」(本年42%、前年51%)、「病気」(32%、27%)、「サークル活動」(18%、16%)、夜間主コースでは「自己の怠惰」(43%、60%)、「病気」(29%、18%)、「アルバイト」(17%、15%)である。ここで注意すべきことは、「自己の怠惰」は昼間コースで9ポイント、夜間主コースで17ポイント良くなっていることである。また、昼間コースで科目別に比較してみよう。講義科目では「自己の怠惰」(本年47%、前年58%)、「病気」(26%、20%)、「サークル活動」(18%、16%)である。この傾向は昼間コースを学科等別にみても同じである。他方、語学科目と実技科目は、全く同じ傾向を示している。つまり、語学科目では「病気」(41%、46%)、「自己の怠惰」(35%、34%)、「サークル活動」(19%、16%)である。また、実技科目では「病気」(51%、34%)、「自己の怠惰」(26%、32%)、「サークル活動」(17%、29%)である。

欠席理由「その他」は自由記載になっている。その欠席理由の多くは自己都合のものであるが、教官の側にも問題があるとの指摘もある。例えば、「出席の必要性が感じられなかった」「授業内容が不満であった」「興味をひく授業ではなかったの」である。

3-3 学生の学習態度

図表3-3-3は、講義・語学・実技科目における学生の学習態度を示したものである。この図表によると、講義・語学・実技科目で学生の学習態度が非常に異なっている。学生の学習態度で「熱心であった」を前年と比較しながらみると、昼間コース(本年45%、前年39%)、夜間主コース(46%、45%)である。また、昼間コースを科目別にみると、講義科目(本年42%、前年36%)、語学科目(48%、47%)、実技科目(76%、70%)である。つまり、講義科目(42%)と語学科目(48%)はほぼ同じ傾向を示し、「熱心であった」は40%台であるのに対して、実技科目は76%と非常に高くなっている。他方、昼間コースを学科等別に「熱心であった」の割合の高い順に並べてみると、企業法学科(本年55%、前年51%)、商学科(49%、39%)、一般教育(38%、25%)、社会情報学科(31%、36%)である。つまり、商学科で10ポイント、一般教育で13ポイント高くなっている。

3-4 学生の学習態度で改善すべき点(自由記載)(p.94参照)

3-5 授業の予習・復習

図表3-3-5は、講義・語学・実技科目の授業の予習・復習の状況を示したものである。この図表で、授業の予習・復習を「行った」「行わなかった」の2区分にわけて昼間コースと夜間主コースを比較すると、両コースともほぼ同じ傾向を示している。授業の予習・復習を「行った」を前年と比較し

ながらみると、昼間コース（本年40%、前年34%）、夜間主コース（42%、38%）である。また昼間コースを科目別にみると、講義科目（本年26%、前年22%）、語学科目（69%、70%）である。他方、昼間コースを学科等別に予習・復習を「行った」の割合の高い順に並べてみると、商学科（本年32%、前年27%）、社会情報学科（30%、27%）企業法学科（28%、28%）、一般教育（17%、13%）である。ここで注目すべきことは、予習・復習を「行った」を前年と比較して、昼間コースと夜間主コース、科目別および講義科目を学科等別にみてもほぼ同じ傾向になっていることである。さらに、本アンケートの回答者で出席率「80%以上」は、講義科目（84%）、語学科目（95%）である。したがって、講義科目（74%）、語学科目（31%）の者は、予習・復習を行わないで授業に出席しているという驚くべき事実が明らかになったのである。講義科目と語学科目とは、授業の性質に大きな違いのあることを認めるとしても、講義科目の教官の講義内容や講義方法にも問題があることを認識してもらいたいものである。

3-6 授業の予習・復習をしなかった理由

図表3-3-5では、授業の予習・復習を「行わなかった」者は、昼間コース（60%）、夜間主コース（58%）である。また昼間コースの科目別では、講義科目（74%）、語学科目（31%）である。そこで、講義・語学科目の授業の予習・復習をしなかった理由を明らかにしようとしたのが、図表3-3-6である。この図表をみると、全体的にはほぼ同じ傾向にあることがわかる。授業の予習・復習を「行わなかった」理由を前年と比較しながら順位の高い方から並べてみると、前年と同じ順位であるという興味深い事実が明らかとなっている。すなわち、昼間コースにおける講義科目では「必要を感じなかった」（本年56%、前年55%）、「自己の怠惰」（33%、36%）、「サークル活動」（4%、4%）と「アルバイト」（4%、3%）である。また、語学科目では「自己の怠惰」（50%、54%）、「必要を感じなかった」（34%、27%）、「サークル活動」（9%、10%）である。他方、昼間コースを学科等別に授業の予習・復習をしなかった理由の割合の高い方から並べてみよう。つまり、1位「必要を感じなかった」（商学科（本年51%、前年49%）、企業法学科（43%、38%）、社会情報学科（52%、52%）、一般教育（65%、70%））、2位「自己の怠惰」（商学科（39%、43%）、企業法学科（47%、55%）、社会情報学科（35%、38%）、一般教育（25%、22%））である。

3-7 テキストの購入

図表3-3-7は、講義科目における学科等別のテキストの購入状況を示したものである。

この図表で、テキストを「購入した」「購入しなかった」の2区分にわけて昼間コースと夜間主コースを比較しよう。テキストを「購入した」を前年と比較しながらみると、昼間コース（本年48%、前年47%）、夜間主コース（47%、51%）である。他方、昼間コースを学科等別に「購入した」の割合の高い順に並べてみると、企業法学科（本年66%、前年69%）、商学科（54%、53%）、一般教育（41%、36%）、社会情報学科（40%、35%）である。すなわち、「購入した」を学科等別にみると、

両年ともその順位は全く同じであり、企業法学科と商学科は比較的高いのに対して、一般教育と社会情報学科は低くなっている。それにともない「その他」の理由では一般教育（本年29%、前年18%）と社会情報学科（28%、27%）は高くなっている。

3-8 テキストの有用性

図表3-3-8は、講義科目のテキストの有用性を示したものである。この図表で、テキストが「役に立った」「役に立たなかった」の2区分にわけて昼間コースと夜間主コースを比較しよう。テキストが「役に立った」を前年と比較しながらみると、昼間コース（本年44%、前年45%）、夜間主コース（48%、47%）とほとんど同じ傾向を示している。また昼間コースを学科等別に比較して、テキストの有用性の高い順に並べてみると、企業法学科（本年57%、前年56%）、商学科（41%、51%）、一般教育（38%、34%）、社会情報学科（36%、40%）である。ここで注意すべきことは、テキストが「役に立った」の低い学科は「どちらともいえない」が40%台と非常に高いことである。この点は、詳細に分析して改善すべきことであろう。そのためには、まず質問項目を、例えば「テキストの役立たなかった理由」を具体的に記載するように改訂する必要があるであろう。

4 講義の満足度

4-1 講義の総合的満足度

図表3-4-1は、講義・語学・実技科目における講義の総合的満足度を示したものである。この図表で、講義に「満足できた」「どちらともいえない」「不満であった」の3区分にわけて昼間コースと夜間主コースを比較しよう。講義に「満足できた」を前年と比較しながらみると、昼間コース（本年57%、前年53%）、夜間主コース（54%、55%）であり、両コースとも50%台である。また科目別にみると、講義科目と語学科目は両コースともほぼ同じ程度の満足度である。つまり、講義科目では昼間コース（本年56%、前年49%）、夜間主コース（52%、54%）、語学科目では昼間コース（59%、61%）、夜間主コース（59%、57%）、実技科目では昼間コース（71%、72%）、夜間主コース（55%、85%）である。他方、昼間コースを学科等別に比較して、講義の満足度の高い順に並べてみると、商学科（本年69%、前年59%）、企業法学科（65%、61%）、一般教育（53%、39%）そして社会情報学科（43%、44%）である。つまり、前年との比較では商学科10ポイント、一般教育は14ポイント高くなり、これは著しい改善とみることができよう。また、夜間主コースについてみると、商学科（本年71%、前年60%）、企業法学科（60%、56%）、社会情報学科（48%、45%）、一般教育（43%、61%）である。つまり、前年との比較で著しい特徴は、商学科では11ポイント高くなっているのに対して、一般教育では18ポイントも低くなっていることである。そしてこの原因がどこにあるかについて、次の講義の「良い点」と「良くなかった点」を手がかりにして検討したい。

4-2 講義の良い点（複数選択回答可）

図表3-4-2は、講義の良い点を複数選択回答で尋ねたものである。この図表で、講義の良い点について昼間コースと夜間主コースの順位をみると、両コースは全く同じである。講義の良い点を前年と比較しながらみてみよう。つまり、昼間コースでは「まじめに講義」（本年36%、前年18%）、「知的関心を高めてくれた」（28%、46%）、「わかりやすい講義」（23%、39%）である。すなわち、前年との比較では、そこには著しい相違があることがわかる。「まじめに講義」では18ポイントも高くなっているのに対して、「知的関心を高めてくれた」では18ポイント、「わかりやすい講義」で16ポイントも低下していることである。また、夜間主コースについてもほとんど同じ傾向がみられる。つまり、夜間主コースでは「まじめに講義」（本年39%、前年13%）、「知的関心を高めてくれた」（29%、49%）、「わかりやすい講義」（21%、47%）である。すなわち、前年との比較では、そこには著しい相違があることがわかる。「まじめに講義」では26ポイントも高くなっているのに対して、「知的関心を高めてくれた」では20ポイント、「わかりやすい講義」で26ポイントも低下していることである。

ここで興味ある点は、「まじめに講義」の項目であり、これを前年と比較してみよう。まずコース別にみると、昼間コース（本年36%、前年18%）、夜間主コース（39%、13%）であり、前年より著しく高くなっている。また、昼間コースを科目別にみても同じである。つまり、講義科目（本年35%、前年2%）、語学科目（38%、67%）である。このように、「まじめに講義」は、講義科目では前年と比較して33ポイントも高くなっているのに対して、語学科目では29ポイント低下している。この点は詳細に分析する必要があるであろう。

4-3 講義の良くなかった点（複数回答可）

図表3-4-3は、講義・語学科目の講義の良くなかった点を複数選択回答で尋ねたものである。この図表で、講義の良くなかった点を前年と比較しながらみてみよう。つまり、講義科目については、昼間コースでは「話が単調」（本年35%、前年29%）、「講義がわかりにくい」（30%、30%）、「興味をもたせる工夫が不足」（29%、25%）である。すなわち、「講義がわかりにくい」は少し改善しているのに対して、他は悪くなっている。夜間主コースでは「話が単調」（本年35%、前年28%）、「興味をもたせる工夫が不足」（34%、25%）、「講義がわかりにくい」（28%、24%）といずれも悪くなっている。また昼間コースの語学科目について「話が単調」（本年39%、前年33%）、「興味をもたせる工夫が不足」（30%、21%）、「講義がわかりにくい」（28%、11%）とすべて悪化しており、特に「講義がわかりにくい」は17ポイントも悪化している。他方、昼間コースの学科別等では、商学科と企業法学科は「話が単調」（商学（本年39%、前年27%）、企業法（40%、25%））、「興味をもたせる工夫が不足」（（33%、23%）、（29%、19%））であり、社会情報学科と一般教育は「話が単調」（社会情報（本年36%、前年31%）、一般（33%、31%））、「講義がわかりにくい」（（33%、34%）、（30%、23%））である。つまり、「話が単調」「興味をもたせる工夫が不足」「講義がわかりにくい」

のすべてにおいて前年に比べて悪化している。このような結果をみると、教師の側にも講義の方法について工夫すべきところがあるように思われる。

5 講義の内容

5-1 講義内容の体系性

図表3-5-1は、講義・語学科目の講義内容の体系性を示したものである。この図表で、講義内容が「体系的であった」「体系的でなかった」の2区分にわけて昼間コースと夜間主コースを比較すると、両コースはほぼ同じ傾向を示している。講義内容の体系性について前年と比較しながらみると、「体系的であった」では昼間コース（本年60%、前年60%）、夜間主コース（57%、57%）と両コースとも全く同じ結果を示している。他方、昼間コースを学科等別に比較して「体系的であった」の割合の高い順に並べてみると、企業法学科（本年75%、前年71%）、商学科（71%、69%）、社会情報学科（59%、55%）、一般教育（55%、48%）である。つまり、企業法学科と商学科は70%台で比較的高いものに対して、社会情報学科と一般教育は50%台で低い評価になっている。このような結果は、学問の性質によるところもあるかもしれないが、それにしても教官の努力が必要などころも多々あるところであろう。

5-2 講義内容の興味深さ

図表3-5-2は、講義・語学科目の講義内容の興味深さを示したものである。この図表で、講義内容に「興味深かった」「興味深くなかった」の2区分にわけて昼間コースと夜間主コースを比較すると、両コースはほぼ同じ傾向を示している。講義内容が「興味深かった」を前年と比較しながらみると、昼間コース（本年59%、前年55%）、夜間主コース（58%、59%）でともに50%台でほぼ同じ結果を示している。他方、昼間コースを学科等別に比較して「興味深かった」の割合の高い順に並べてみると、企業法学科（本年73%、前年65%）、商学科（67%、58%）、一般教育（58%、47%）、社会情報学科（48%、52%）である。つまり、企業法学科は8ポイント、商学科は9ポイント、そして一般教育は11ポイント高くなっているのに対して、社会情報学科は4ポイント低下している。この点は、社会情報学科が講義の良くなかった項目で「講義がわかりにくい」（33%）と、講義の満足度項目での「講義に満足」（42%）で低い評価になっていることと符合しているように思われる。

5-3 講義内容の量的適切さ

図表3-5-3は、講義・語学科目の講義内容の量的適切さを示したものである。この図表で、講義内容が「多すぎた」「適量であった」「少なすぎた」の3区分にわけて昼間コースと夜間主コースを比較すると、そこではほぼ同じであることがわかる。講義内容が「適量であった」を前年と比較しながらみると、昼間コース（本年57%、前年61%）、夜間主コース（55%、65%）で夜間主コースは10ポイントも低下している。他方、昼間コースを学科等別に比較して「適量であった」の割合の高い順

に並べてみると、商学科（本年67%、前年55%）、一般教育（58%、69%）、企業法学科（56%、62%）、社会情報学科（47%、60%）である。つまり、講義内容が「適量であった」の順位は、商学科が高くなって他の学科は低下しているのので、本年と前年では全く違った結果になっている。

5-4 教師の講義への新しい動向の取入れ努力

図表3-5-4は、講義科目の教師の講義への新しい動向の取入れ努力を示したものである。この図表で、新しい動向の取入れに「努力していた」「努力していなかった」の2区分にわけて昼間コースと夜間主コースを比較しよう。新しい動向の取入れに「努力していた」を前年と比較しながらみると、昼間コース（本年56%、前年51%）、夜間主コース（50%、52%）でほぼ同じである。また、昼間コースを学科等別に比較して「努力していた」の割合の高い順に並べてみると、一般教育（本年59%、前年45%）、商学科（58%、58%）、企業法学科（58%、58%）、社会情報学科（41%、48%）である。すなわち、一般教育は14ポイント高くなっているのに対して、社会情報学科は7ポイント低下している。また、商学科と企業法学科は両年とも58%と同じになっているのも興味あるところである。

5-5 講義内容と授業計画の整合性

図表3-5-5は、講義・語学科目の講義内容と授業計画の整合性を示したものである。この図表で、講義内容が授業計画に「80%以上沿っていた」「50%以下」の2区分にわけて昼間コースと夜間主コースを比較しよう。講義内容と授業計画の整合性を前年と比較しながらみると、「80%以上沿っていた」では昼間コース（本年87%、前年89%）、夜間主コース（84%、89%）でほぼ同じ傾向を示している。また、昼間コースを科目別に比較すると、講義科目（本年87%、前年87%）、語学科目（87%、92%）で両科目ともほぼ同じである。他方、昼間コースを学科等別に比較して、講義内容が授業計画に「80%以上沿っていた」の割合の高い順に並べてみると、商学科（本年92%、前年88%）、企業法学科（91%、93%）、社会情報学科（85%、86%）、一般教育（83%、85%）である。つまり、ここでも前年とほぼ同じ傾向を示している。

さて、講義は授業計画に沿って進めるべきもので、当初、90%以上と予想していたが、意外に低い学科があることが明らかになっている。学生意見で「シラバスにウソを書くな」と指摘されたこともうなずけるところである。講義の進行過程において、授業計画を変更することもありうるのので、その時には学生にその変更理由をきちんと説明する必要がある。そうでなければ、講義に対する教官と学生の信頼関係がくずれることもあるので注意したいところである。

6 講義の方法

6-1 教師の話し方

図表3-6-1は、講義・語学科目の教師の話し方を示したものである。この図表で、話し方が「聞きやすかった」「聞きにくかった」の2区分にわけて昼間コースと夜間主コースを比較すると、両コー

スともほぼ同じ傾向を示している。話し方が「聞きやすかった」を前年と比較しながらみると、昼間コース（本年66%、前年62%）、夜間主コース（64%、70%）である。また、昼間コースを科目別にみると、講義科目（本年62%、前年58%）、語学科目（72%、76%）で、前者は少し高くなり後者は少し低くなっている。他方、昼間コースを学科等別に比較して、講義が「聞きやすかった」の割合の高い順に並べてみると、商学科（本年81%、前年65%）、企業法学科（63%、66%）、一般教育（59%、50%）、社会情報学科（49%、56%）である。つまり、商学科が16ポイントも高くなっているのに対して、社会情報学科は7ポイントも低下して50%以下になっている。

さて、「聞きやすさ」は、教師の話し方だけでなく、教室の広さやマイクの使い方にもよるので、その点も考慮して改善するよう努力してもらいたいものである。

6-2 テキスト・プリントの使い方

図表3-6-2は、講義・語学科目のテキスト・プリントの使い方を示したものである。この図表で、テキスト等の使い方が「適切であった」「不適切であった」の2区分にわけて昼間コースと夜間主コースを比較しよう。テキスト等の使い方が「適切であった」を前年と比較しながらみると、昼間コース（本年64%、前年63%）、夜間主コース（61%、59%）でほぼ同じ傾向を示している。また、昼間コースを科目別にみると、講義科目（本年59%、前年60%）、語学科目（74%、72%）でここでもほぼ同じ傾向を示している。他方、昼間コースを学科等別に比較して、「適切であった」の割合の高い順に並べてみると、商学科（本年73%、前年69%）、社会情報学科（64%、63%）が比較的高いのに対して、企業法学科（52%、55%）と一般教育（51%、53%）は低下している。ここでも、各学科毎に同じ傾向を示しており、評価の低い学科は、テキスト・プリントの使い方を工夫して、教育効果をあげるべく努力してもらいたいものである。

テキスト・プリントの使い方についての学生意見を示すと、次のようなものがある。

- 1 ホームページで授業プリントの解説がみられるので、とても役に立った。
- 2 テキスト・プリントがあったほうが、より理解しやすいのではないのでしょうか。
- 3 教科書が分りにくいので、板書でもっと詳しくやってほしい。
- 4 説明は何度か繰返してほしい。重要なことは板書し、体系はきちんと書いてほしい。
- 5 学生のレベルに準じた講義、テキスト・プリントを使用していただきたい。

6-3 黒板・OHP・ビデオ装置等の使い方

図表3-6-3は、講義・語学科目の黒板・OHP・ビデオ装置等の使い方を示したものである。この図表で、黒板等の使い方が「適切であった」「不適切であった」の2区分にわけて昼間コースと夜間主コースを比較しよう。黒板等の使い方が「適切であった」を前年と比較しながらみると、昼間コース（本年49%、前年46%）、夜間主コース（49%、48%）でほぼ同じである。また、昼間コースを科目別にみると、講義科目（50%、45%）、語学科目（48%、48%）で前者は少し高くなっている。

他方、昼間コースを学科等別に比較して、黒板等の使い方が「適切であった」の割合の高い順に並べてみると、商学科（本年62%、前年56%）、社会情報学科（52%、49%）、一般教育（48%、40%）、企業法学科（35%、35%）である。つまり、黒板等の使い方は、前年より改善されている。しかし、満足すべき状態でないので、改善が望まれるところである。

黒板等の使い方が「不適切である」の意見を例示すると、次のようなものがある。

- 1 黒板に書くならきちんと書いて下さい。時々、学生の様子を見て話して下さい。
- 2 黒板でもう少し要点をまとめてほしい。
- 3 黒板等の使い方が不適切、プリントをもっと使ってほしい。
- 4 黒板を見やすく書いてほしい。分りやすく説明してほしい。
- 5 書くにしても語句の説明をきちんとしてほしい。
- 6 書くので手が一杯だ話が聞けない。もう少しゆっくり進むかプリントを使って。
- 7 OHPは全然見えないし、黒板の使い方はめちゃくちゃ、尻切れトンボ。
- 8 OHPを使いすぎてノートに書写すだけの授業で、意味のない授業だった。
- 9 OHPで見たのをプリントで渡してほしい。

6-4 学生の反応に注意しての講義の進め方

図表3-6-4は、講義・語学科目において、教師が学生の反応に注意しての講義の進め方を示したものである。この図表で、学生の反応に「注意を払っていた」「注意を払っていなかった」の2区分にわけて昼間コースと夜間主コースを比較すると、そこには少し差があることがわかる。学生の反応に「注意を払っていた」を前年と比較しながらみると、昼間コース（本年57%、前年57%）、夜間主コース（50%、49%）でほぼ同じである。また、昼間コースを科目別にみると、講義科目（本年51%、前年52%）、語学科目（69%、72%）でこれまた講義科目の評価が低くなっている。他方、昼間コースを学科等別に比較して、学生の反応に「注意を払っていた」の割合の高い順に並べてみると、商学科（本年55%、前年58%）、企業法学科（55%、55%）、一般教育（48%、55%）、社会情報学科（43%、33%）である。また全体的にみても、評価が良くても50%台であり、教師が学生の反応に注意して講義を進めるよう心がけるべきであろう。学生の反応に注意していた意見として、次のようなものがある。

- 1 生徒との対話を大切にしていたところがよい。
- 2 学生のことを考えて講義をしてくれた。
- 3 意見票により学生の意見に耳を傾けてくれる点が良かった。
- 4 生徒に質問をしながら楽しい授業である。
- 5 話の内容は具体的で分り易かった。質問にもきちんと丁寧に誠実に答えていた。
- 6 テストとかレポートを添削してくれるのが良かった。

7 授業等について良い点と改善してほしい点（自由記載）（p.112参照）

8 講義科目の総合評価（総平均値）

これまで、学生アンケートの調査結果を講義の選択理由、学生の学習態度、講義の満足度、講義の内容および講義の方法について、詳細に検討してきた。ところが、これらを総合して全体ではどのようなになっているかをみる必要がある。総合評価をする場合、指標に何をを用いるかについては、意見のわかれるところである。しかし、ここではとりあえず図表3-8のように、総合指標として満足度、興味深さ、新しい研究動向の取入れおよび学生の反応に注意を因子とした総平均値を測定尺度として、比較分析をしてみたい。

ここで注意しておきたいことは、アンケートは「1」が強い肯定、「5」が強い否定を示しているのので、小さいほうが良いことになる。しかし、それでは一般常識と異なり理解しづらいので、ここでは「5」が強い肯定、「1」が強い否定を示すように数値を変換している。また各因子の数値は学科等別の平均値をとっている。

さて、図表3-8は、講義科目の総合評価を示したものである。この図表で、総平均値をもとに昼間コースと夜間主コースの学科等別の順位を前年と比較しながら見てみよう。昼間コースでは、1位 企業法学科（本年3.74、前年3.70）、商学科（3.74、3.65）、3位 一般教育（3.55、3.43）、4位 社会情報学科（3.32、3.40）である。つまり、総合評価の前年との比較においては、その順位はほぼ同じである。また、商学科と一般教育では0.1ほど高くなっているのに対して、社会情報学科は0.1ほど低くなっている。他方、夜間主コースについても同じ方法で比較してみると、1位 商学科（本年3.71、前年3.65）、2位 企業法学科（3.69、3.53）、3位 一般教育（3.43、3.63）、4位 社会情報学科（3.38、3.38）である。つまり、企業法学科は0.1ほど高くなっているのに対して、一般教育は0.2ほど低くなっている。その結果、一般教育は前年の1位から3位に後退し、それ以外の順位は同じである。

以上の結果を要約すると、次のようになる。つまり、講義科目の総合評価における昼間コースと夜間主コースの学科等別の順位は全く同じである。すなわち、商学科（昼間3.74、夜間主3.71）、企業法学科（3.74、3.69）、一般教育（3.55、3.43）、社会情報学科（3.32、3.38）である。このような結果は、これまでの分析結果とほぼ一致するところであろう。そしてかかる事実を率直にうけとめ、評価の悪い学科は授業改善により一層の努力が要望されるところである。

9 学年・講義の選択理由と満足度の関係

9-1 学年と満足度の関係

図表3-9-1は、講義科目・語学科目における学年と満足度の関係を示したものである。この図表で、講義科目において講義に「満足できた」「不満であった」の2区分にわけて比較すると、1年（満足48%、不満17%）、2年（55%、13%）、3年（63%、10%）、4年（69%、8%）である。つまり、講義の満足度は、学年が進むにつれて高くなっている。また、講義に「満足できた」を学年別に前年と

比較すると、1年（本年48%、前年44%）、2年（55%、54%）、3年（63%、53%）、4年（69%、60%）であり、すべて前年より高く、3年では10ポイントも高くなっている。また、1年の満足度は40%台と非常に低くなっているが、これは、受験競争からの解放感と大学で何を勉強し、大学生活をどのように過したらよいかという目標を持っていないことによるものであろう。

他方、語学科目についても同じように、講義に「満足できた」「不満であった」の2区分にわけて比較すると、1年（満足57%、不満12%）、2年（59%、9%）、3年（59%、12%）である。つまり、満足度は学年が進んでもほぼ同じである。また、「満足できた」を学年別に前年と比較すると、1年（本年57%、前年60%）、2年（59%、59%）そして3年（59%、66%）である。つまり、満足度は3年で少し低下しているが、1年と2年はほぼ同じである。

以上の結果を要約すると、次のようになる。つまり、学年と講義の満足度の関係は、講義科目では学年が進むにつれて満足度が48%から63%まで高くなっているのに対して、語学科目では学年が進んでも満足度が50%台でほぼ一定である。

9-2 講義の選択理由と満足度の関係

図表3-9-2は、講義科目・語学科目における選択理由と満足度の関係を示したものである。この図表で、講義科目において講義の選択理由で「満足できた」「不満であった」の2区分にわけて比較すると、「必修科目」（満足59%、不満13%）、「専門の勉強」（66%、10%）、「シラバスを読み興味」（62%、9%）、「時間割の関係」（30%、24%）である。また、「満足できた」の割合の高い順に前年と比較しながら並べてみよう。「専門の勉強」（本年66%、前年60%）、「シラバスを読み興味」（62%、56%）、「必修科目」（59%、51%）、「時間割の関係」（30%、28%）である。つまり、選択理由における満足度の高い順に並べてみると、その順位は前年と全く同じである。また、満足度は全体的に高くなっているが、しかし、「時間割の関係」は30%位で非常に低いことがわかる。さらに、「必修科目」は、一般に満足度が低いと予想していたが前年より8ポイント高くなって59%である。そこで、「必修科目」は満足度が低いという定説を改め、明確な教育目標を設定して独創的なカリキュラムを作ることが望ましいかもしれない。

他方、語学科目についても講義の選択理由で「満足できた」「不満であった」の2区分にわけて比較すると、「必修科目」（満足57%、不満11%）、「専門の勉強」（76%、2%）、「シラバスを読み興味」（74%、4%）、「時間割の関係」（46%、26%）である。また、「満足できた」の割合の高い順に前年と比較しながら並べてみよう。「専門の勉強」（本年76%、前年65%）、「シラバスを読み興味」（74%、73%）、「必修科目」（57%、58%）、「時間割の関係」（46%、59%）である。つまり、選択理由における満足度の高い順に並べてみると、その順位は前年とほとんど同じである。さらに、「専門の勉強」と「シラバスを読み興味」は70%台で比較的高いものに対して、「時間割の関係」は40%台で非常に低くなっている。「必修科目」を選択した者は、全体の85%（前年84%）であり、満足度は57-8%でほぼ同じである。

以上の結果を要約すると、次のようになる。つまり、講義の選択理由で満足度の高い順に並べてみると、講義科目と語学科目ではその順位は全く同じである。すなわち、「専門の勉強」（講義66%、語学76%）、「シラバスを読み興味」（62%、74%）、「必修科目」（59%、57%）、「時間割の関係」（36%、46%）である。満足度は、「必修科目」では両科目とも50%台でほぼ同じであるが、他の選択理由では語学科目の方が10ポイントほど高くなっている。

9-3 授業に関する各質問項目と満足度の相関関係

図表3-9-3は、授業に関する各質問項目と満足度の相関関係を示したものである。この図表で、授業の満足度と強い相関関係（相関係数：0.4以上）を示している項目を前年と比較しながら並べてみよう。つまり、1位「講義内容の興味深さ」（本年0.64、前年0.67）、2位「教師の話し方」（0.53、0.49）、3位「学生の学習態度」（0.47、0.49）、4位「新しい研究動向の取入れ」（0.46、0.38）、5位「講義内容の体系性」（0.43、0.44）、6位「黒板等の使い方」（0.42、0.39）、7位「学生の反応をみながら講義」（0.41、0.32）、8位「テキスト等の使い方」（0.41、0.37）である。

ここで注目すべきことは、出席率（本年0.15、前年0.21）と満足度はそれほど関係ないことである。この点については、前年の分析において高出席率学生（出席率80%以上）と低出席率学生（出席率30%以下）にわけて先ほどと同じ方法で相関分析したところ、高出席率学生（0.092）に対して、低出席率学生（0.136）である。この結果をみると、出席率と満足度はそれほど関係ないことが明らかとなったのである。したがって、両者を区別しないで分析しても、その結果はそれほど異なるものと思われる。

第3節 個別型（経済学科授業評価）

経済学科は、平成11年度も学生アンケート調査を学科独自の授業評価質問票を用いて実施している。この方法は、前年の委員会で正式のもとして認められている。そこで、経済学科の学生アンケート調査は他の学科と区別して記載する。また、学生アンケート調査結果の集計にあたっては、個別型アンケートに関する基本方針ならびに実施要領（平成10年1月21日教授会）で、授業科目が特定されるような内容は公表しないことになっている。しかし、経済学科は前年と同じように、授業科目別および担当教官別にしており、本年もこれを尊重することにしたい。1999年度経済学科授業評価を示すと、次頁のようになる。

1999年度経済学科授業評価 (前期科目)		担当教官	履修者数	回答数	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
	【昼間コース】																								
	ミクロ経済学	篠塚	393	135	3.2	3.6	3.3	3.6	4.2	3.1	3.2	3.0	3.2	3.9	3.4	3.2	3.5	2.5	2.7	3.1	4.2	3.5	3.8	3.3	3.3
	統計学	瀬戸	238	83	4.4	4.8	4.1	4.4	4.5	3.6	4.2	4.1	4.3	4.9	4.2	4.0	4.3	4.6	3.8	4.4	2.8	4.4	4.4	4.4	4.2
	経済学史	江頭	214	38	4.1	4.0	3.9	3.8	4.3	3.5	3.7	4.1	3.8	4.5	3.5	4.2	3.4	2.7	2.7	3.1	3.9	3.8	4.0	3.8	3.8
	西洋経済史	平井	162	26	3.2	3.3	2.6	3.0	3.8	2.8	3.0	3.8	3.2	3.8	2.6	3.0	2.3	2.3	2.4	0.0	3.5	2.9	2.9	3.0	3.0
	産業組織論	鶴沢	211	19	3.1	3.6	3.5	3.7	4.4	3.7	2.8	2.7	3.1	4.1	3.2	3.1	2.7	2.9	2.9	3.2	4.1	3.9	3.9	3.2	3.2
	金融経済論	和田	203	37	3.1	3.6	3.1	4.0	4.0	3.2	3.7	4.0	3.6	4.4	2.7	3.3	3.7	3.5	2.8	3.5	3.7	3.8	3.9	3.8	3.3
	金融政策	川浦	238	61	4.6	4.8	4.3	4.6	4.7	3.7	4.3	0.0	4.5	4.6	4.0	4.5	4.4	3.4	3.4	3.7	4.7	4.5	4.6	4.5	4.5
	【夜間主コース】																								
	マクロ経済学	山本	37	22	4.0	4.6	3.8	3.7	4.6	3.6	3.9	3.6	3.8	4.4	2.6	3.5	4.1	4.3	3.7	4.1	3.5	3.9	4.4	4.0	3.6
	経済学史	江頭	47	29	4.2	4.2	4.0	4.4	4.3	3.8	3.8	3.9	3.9	4.4	3.1	3.5	3.4	3.3	3.4	4.2	4.0	4.1	4.1	3.9	3.7
	国際経済論	柴山	102	42	2.4	3.2	2.7	3.7	3.1	2.7	2.7	2.9	2.7	3.3	2.9	2.9	2.9	3.6	2.8	3.3	2.8	3.3	3.5	2.9	2.8
	国際金融論	渋谷	28	17	3.8	3.9	3.7	4.5	4.3	3.6	3.9	3.6	3.8	4.3	3.9	4.1	4.1	3.6	3.5	4.0	3.6	3.9	4.0	3.9	3.8
	経済学特別講義I	セングバ	9	3	3.0	3.3	4.0	5.0	5.0	4.3	4.0	4.3	3.7	5.0	4.0	4.3	5.0	4.0	3.7	4.3	4.7	4.5	4.5	5.0	4.7

1999年度経済学科授業評価 (後期・通年科目/前期科目の経済統計学を含む)		担当教官	履修者数	回答数	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
【昼間コース】																										
	マクロ経済学	加藤	341	54	3.0	2.8	2.9	2.8	3.3	3.1	2.8	3.2	2.7	2.9	3.5	3.8	3.1	2.9	4.1	3.8	2.9	2.7	3.4	3.5	3.2	3.0
	マルクス経済学	花田	331	32	2.7	3.0	2.7	3.0	3.4	2.9	2.9	3.2	2.3	2.9	3.6	3.6	1.9	2.8	1.9	1.9	2.0	3.2	2.8	2.6	2.8	2.7
	数理統計学	西山	153	30	4.2	3.6	4.2	4.3	4.4	3.7	4.6	4.6	4.0	3.7	4.7	4.2	3.7	3.4	4.5	4.2	4.4	3.4	4.1	4.0	4.0	4.1
	計量経済学	遠藤	218	27	2.8	2.7	2.9	3.6	2.4	2.6	3.1	3.3	3.5	4.2	4.4	3.8	2.9	3.3	2.3	2.3	2.9	4.3	4.5	4.6	3.3	3.3
	経済データ解析論	瀬戸	137	20	4.6	4.1	4.4	3.9	4.3	4.5	4.4	4.5	3.5	4.3	4.4	4.9	2.8	3.0	4.5	4.3	4.0	3.1	4.0	4.1	4.4	4.1
	経済史	今西平井	621	128	2.4	2.3	2.3	2.7	2.9	2.2	2.3	2.2	2.3	2.7	3.4	3.4	2.0	2.5	2.2	2.0	2.3	3.4	2.8	2.7	2.4	2.3
	労働経済学	中村	49	19	3.4	3.0	3.6	4.1	4.1	3.2	3.5	4.2	3.8	3.9	4.0	4.3	2.8	2.3	*	*	*	*	*	*	3.5	3.6
	財政学	角野	387	95	3.6	3.7	3.7	3.0	3.2	3.3	3.6	4.3	3.5	3.8	4.0	4.3	3.1	3.8	3.1	3.1	3.2	3.1	3.8	3.9	3.6	3.5
	国際経済論	船津	253	84	3.8	4.0	3.8	3.8	3.6	3.9	4.0	3.9	3.5	3.9	4.3	4.3	3.2	3.2	2.6	2.5	2.8	3.1	3.7	3.7	3.8	3.7
	国際経済政策	柴山	226	53	3.6	3.8	3.7	3.5	3.8	3.5	3.3	3.3	2.8	4.2	3.9	4.2	3.2	3.3	2.9	2.9	3.2	3.6	4.1	4.1	3.6	3.5
	国際金融論	渋谷	223	43	3.8	4.1	3.9	4.0	3.5	3.8	3.8	3.7	3.4	4.1	4.3	4.1	3.6	3.0	3.0	3.0	3.2	2.8	3.6	3.7	3.9	3.6
	経済学特別講義Ⅰ	センガタ	119	4	4.0	3.5	4.0	3.3	4.3	4.0	2.8	3.5	3.8	4.3	4.0	4.3	3.5	3.5	3.0	3.0	3.5	4.0	4.0	4.0	4.0	3.8
	経済学特別講義Ⅱ	センガタ	105	8	3.6	2.9	3.4	3.4	3.4	3.3	2.8	2.8	2.8	4.5	4.3	4.1	3.6	3.0	2.3	2.7	3.3	3.0	3.9	3.9	3.9	3.6
	経済統計学	山田	153	87	4.6	4.0	4.5	4.1	3.7	4.6	4.6	4.5	4.0	4.8	4.8	4.7	3.8	3.5	4.5	4.2	4.1	3.7	4.3	4.2	4.4	4.5
	【夜間主コース】																									
	統計学	西山	86	43	3.8	3.2	3.9	4.3	4.3	3.9	4.6	4.6	4.0	3.6	4.5	4.2	3.5	3.5	4.1	3.3	4.3	3.5	4.1	4.0	4.0	4.0
	日本経済史	今西	75	18	3.1	3.0	3.0	3.2	3.0	2.9	3.1	3.3	2.4	3.4	4.2	4.0	2.7	2.9	2.9	2.9	3.3	3.8	3.5	3.5	3.1	2.8
	財政学	角野	148	72	3.6	3.4	3.8	3.2	3.5	3.3	3.9	4.3	3.6	3.6	4.2	4.3	3.1	3.4	2.8	2.6	3.2	3.3	4.0	4.0	3.8	3.5

*は解答数0の項目

第4節 学生意見要約

学生アンケート調査結果の学生意見は、共通型と個別型に記載されている。それらを個別的に記載するだけでは、学生の意見が理解しづらい。そこで、両方を整理・要約して示したのが、次のものである。当委員会は、各教官が学生の率直な意見に耳を傾け授業改善に役立てることを期待している。なお、*印は、特に強調したい点または前後の文脈が異なっていることを示している。

[教官に対する意見]

- 1 学生の学習態度は先生次第でかわる。
- 2 このアンケートがどう利用されてるか、具体的に生徒に教えてほしい。
- 3 先生方個人についてのアンケートを実施して欲しい。教えるのが下手であったり、不親切であったりする方もいる。
- 4 生徒による教師評価をもっとしてほしい。
- 5 授業の評価をすべて公開するべきである。そうしないと、自分の評価のされ方がわからないので、次の年への自分の改善点を見出すことができない。

I 教官の授業態度

講義科目

○昼間コース

(良い点)

- 1 さすが若い先生という感じがしました。内容も学生を引きつけるものだったと思います。
- 2 大学生活を通して、何を習得すべきかを知ることができてよかったです。
- 3 大学の授業にしては珍しく、生徒の気持ちに立って物事を考えてくれてそれが良かった。
- 4 先生の人柄が出ているようなほのぼのとした授業でよかった。また熱心に生徒の意見を聞いてくれて嬉しかった。

(改善を望む点)

- 1 やる気が感じられない。学生の責任にしてあまりにいい加減だ。
- 2 先生の熱意がほしい。おもしろい人がいい。
- 3 授業にやる気のない先生もいれば、もはやいじめともいえることをする先生もいる。そこらへんをなくして欲しい。
- 4 教師自身が現状理解及び自己意見を持っていなかった。
- 5 教官の機嫌が悪すぎ。
- *6 先生の態度がおかしい。偏見をもっている。

- 7 偏見や差別と取られるような言動が少なからずあった。
- 8 学生に対する接し方が悪い。興味を持たせる工夫が足りない。
- 9 学生を小馬鹿にしたような態度。(まあ確かに馬鹿ですけど)先生2人のうちの1人。
- 10 最後まで相手の話を聞くべきだ。何でも自分の思うとおりにいかないと怒る教官は大嫌いだ。専門科目だし、もっと良い教官がいい。
- 11 全くやる気が感じられない。文章を読むだけで、概念の説明がない。
- 12 教師が冷酷だ。古い考え方を生徒に押しつけないでほしい。生徒に文句をつけないでほしい。
- 13 教えてやっているという傲慢な教授が多くいる。研究で忙しいのはわかるが、以前H教授は教授はサービス業、学生の要望にこたえることが仕事とおっしゃっていた。こういう教授が増えない限り学生側も改善されないと思うのは私だけでしょうか。
- 14 先生たちは、もっと学生に教えるということに気を使ってほしい。(学生の態度も悪いが)要するにTeaching Skillを磨いてほしい。分かりにくいものや、興味を持たないような教え方が多い。
- *15 質問した時の先生が怖い。何か怒っているみたい。
- 16 専門の教官に質問しても忙しいのか答えてくれない(T教官、出席していない学生と決めつけられ答えてくれなかった)。
- 17 教官は学生の声に耳をかさない。質問しようとする、”なに?!” っといっしゅう。
- 18 もっと学生の立場に立って授業を進めて欲しかった。板書せずプリントを配って説明させたりする工夫があればよかった。
- 19 私情を授業に持ちこまないでほしい。
- *20 休講の知らせもなく、教官が1時間以上来ないことがあった。
- 21 当日いきなりの休講が多い。休講の場合、事前に掲示なり、指示なり、してほしい。
- 22 途中で帰る生徒を注意しなかった点。
- 23 講義の邪魔になる学生は排除すべき。簡単に単位を取らせない工夫が必要。
- 24 私語を行う学生は退出させるべき。出欠のみのためだけに出席している生徒がいるので出欠は必要ないのではないか?レポートや試験でその効果が出るであろう。
- 25 授業の方針が次々と変わるの困る。
- 26 「出席率が悪い」と言っていたが、理由は月曜日の1講目だからというだけではないと思う。「教科書を読めば分かると思うが」と言うなら、講義に出る必要はないのではないかと思ってしまう。

○夜間主コース

(良い点)

- 1 先生のキャラクターがよかった。

- 2 非常に生徒の意見に耳を傾けてくれた。
- 3 非常に親切、丁寧でとてもわかりやすかった。
- 4 ポイントがよくわかる説明だった。
- 5 話も聞きやすかったし、内容もなかなかおもしろかったです。
- 6 とても説明が丁寧で解りやすかったです。
- 7 疑問に的確な答えがもらえた。
- 8 きりっとした話し方でとても好感を持っています。とても興味深いクラスでした。受講できて良かったです。ありがとうございました。

(改善を望む点)

- 1 学生に言う前に教授たちの教え方に問題がある人がいるから、そこから始まると思う。
- 2 解りやすく説明しようとする熱意が感じられなかった。
- 3 非常に圧迫感があり息苦しい講義だった。
- 4 教官の態度。すぐキレる。関係ない私まで気分が悪くなる。
- 5 学生のやる気をそぐ言動が多かった。
- 6 もっと授業の下調べをして興味をもたせてほしかった。
- 7 学生にあてたあとその答えについての先生のもの言い方がひどい。
- 8 先生によっては、講義に手を抜いている感じがする。例えば、一方的に話して時間とともに誰よりも早く帰るなど、質問しようにも質問できない。他、OHPばかりで、講義といえるものではないような講義もある。
- 9 先生は授業に対してかなりまじめに取り組んでいたが内容が難しすぎる。知的関心を高める程度で良いと思います。

語 学 科 目

○昼間コース

(良い点)

- 1 親しみやすい人柄で、常に学生の立場に立ってくれる良い先生でした。
- 2 すごい先生の人柄も良くて、楽しく勉強できた。
- 3 学生の一人一人をよく理解してくれました。
- 4 非常に熱心さが伝わってきて、やる気がUPしました。
- 5 大変良かった。学生の熱心さに驚いた。こういう授業がたくさんあればいいのに。
- 6 真剣に教えてくれる先生の姿勢が良かった。
- 7 すごく一生懸命教えてくれて、いい先生だと思いました。
- 8 すごく丁寧に教えてくれていて良かった。

- 9 語学の講義は専門の科目とは比べものにならないくらい全体的に親切で分りやすくてよいと思う。わからないところも熱心に教えていただき、大変理解が深まった。
- 10 終始英語しか話さなかったように指導されたのが良かった。

(改善を望む点)

- 1 学生の態度の前に教官の態度の改善が望まれる。
- 2 先生はもっと厳しく授業をしてください。
- 3 もっと積極的に発言できる雰囲気、自ら作っていった方がよい。
- 4 自ら発表できるような機会を作って欲しかった。
- 5 代返の排除・及び出欠確認を早く回す。
- 6 この授業では、出席を取ると、すぐ教室を出て行く男子がいる。注意して。
- 7 教官の遅刻が多い。

○夜間主コース

(改善を望む点)

- 1 先生の教え方に問題あり。
- 2 遅刻、授業への無関心。
- 3 休講の掲示が直前になされることが多く、やる気が減ってしまった。

II 講義方法

講義科目

○昼間コース

(良い点)

- 1 先生は重要な点について何回も話してくれたし、分かり易かったです。

(改善を望む点)

- 1 学生の向学心を高める授業をしてほしい。
- 2 先生達が、自分の書いた本を生徒に売りつけるのはやめて欲しい。ハードカバーじゃなくて、文庫型の教科書ならば、値段も安くて買いやすい。
- 3 授業と無関係な教科書を購入させられ授業はわかりにくすぎだった。
- 4 授業では教科書を開かなかったのに持ちこみで試験はおかしいと思う。
- 5 シラバスでは教科書を指定しながら使用しなかった先生が何人かいる。指定したからには使うべき。使用しないなら参考文献にとどめるべき。

- *6 教科書の丸読みはやめて欲しい。授業に出る必然性が感じられない。
- 7 教科書通りの説明ではなく、教科書をベースにした他の説明をして欲しかった。
- 8 授業は教科書を先生が読むだけだった。小テストの答えもきちんと解説されず、残念だった。又、テストまでに教科書が終わらないのに、全てがテスト範囲とは、どういうこと。
- 9 テキストをほとんど使わず、授業と照らし合わせても、どこの部分をやっているのかがぜんぜん解からなかったのも何とかして欲しい。
- 10 先生のトークが面白かったりわかりやすい講義だと自然とやる気になるので先生ももっと頑張してほしい。例えば授業を急ぎすぎて「あとは読んだらわかりますね。」は反則。Y先生の講義はとても楽しいです。
- 11 学生の理解しないうちに進んでしまう先生がいる。進めばいいというものではないので、的を絞ってしっかり学んだほうが良い。
- 12 I- (12) に関して、分かりやすい講義といっても教授自身は分かりやすく丁寧に講義をしているつもりでも、学生の理解力、理解度のレベルを把握していない教授が多く、何もわからないということがあった。学生も態度を改めるべきだが教授も改めない溝は深まるばかりだ！。
- *13 字をもっと大きく丁寧に書いてほしい講義がある。はっきりと言葉を言ってほしい講義もある。
- 14 授業の資料などをHP上で公開して、授業で使うようにできたら授業が解りやすくなる。
- 15 もう少し黒板を使ってわかりやすく説明してほしい。
- 16 もう少し黒板にまとめてほしい。要点だけ黒板に書いて欲しかった。
- 17 When a teacher write on the blackboard, the words are too small for me.
- 18 板書が見にくい。書いていることに関連性がなくて分からなくなる時があった。
- 19 黒板が汚ない。小さすぎて見づらい、読みにくい、分かりにくい、何をしゃべっているのか分からない。
- 20 黒板に字を書くとき、略字はわかりにくいので、やめて欲しかった。
- 21 OHPが非常に見づらい。パソコンなどを用いてプロジェクターに映し、大人数でも見れるようにすべきだ。また、OHPを見せるスピードがはやい。板書し終わらないうちにかわってしまう。学生の反応を見て授業を行なうべきだ。たまに人数が多いとき後ろまでプリントが来ない。大変不満である。
- 22 OHPの書く量が多すぎ、授業展開早すぎ。教師が生徒の反応を見ていない。理解できないうちに先に進む。OHPが見にくいのでプリントにして欲しかった。
- 23 OHPの使い方も非常に不適切。学生に理解させようとも理解してもらおうともしていなかったように見える。つまりノルマを終わらせることだけに執心していたように見えた。板書(OHP)が非常に多いにもかかわらずはしょって、書くとまも与えてくれない。内容をノートにまとめるのと話を聞くのを両立できない。不満の残る授業でした。

- 24 ぶつぶつ喋らない。先生が早口だったので、もう少しゆっくり話して欲しかった。
- 25 マイクの雑音がひどかったのでなんとかして欲しい。
- 26 マイクを使用しているにもかかわらず、話し方が不明瞭で聞きとりにくかった。
- 27 マイクの音が小さくて聞こえない時があった。
- 28 大教室でありながらマイクを使わない。字が小さくてしかも汚く見づらい。教科書の棒読みしかなかったなどの教官がいて大変学習意欲がなくなる。かかる一部の教官に対する公正な対応を求める。

○夜間主コース

(良い点)

- 1 授業のテンポがよく、時間が過ぎるのが早く感じられた。
- 2 板書、OHP、口頭による説明、どれもわかりやすかった。
- 3 プリントが大変充実したものであったと思う。
- 4 プリント+説明が良かった。

(改善を望む点)

- 1 授業が楽しく思えるような教え方を！！
- 2 何を言っているのか解らない、説明不足。
- 3 教官の音が小さくて何をいっているのかわからない。はっきり話して欲しい。
- 4 OHPを書き写すため、文字が多く手が疲れた。プリントにして配布して欲しい。
- 5 もう少し身近な例を出して、分かりやすく教えて欲しいです。私が知識少なすぎるのですけど。
- 6 授業が速すぎるしとばしすぎてよくわからなかった。
- 7 計算問題の時に教師のペースでどんどん進んでいくのでわかりづらいので改善してほしい。
- 8 毎回レポート提出があってレポートを書くために勉強しないと書けないような難しいテーマばかりだったのでもっとレポートの規模を小さくしてほしい。
- 9 OHPがとても見づらく、ノート量が多かったのが大変でした。
- 10 OHPが手書きなので細部が見えない。明かりを消したまま黒板を使うのは×…。
- 11 黒板をもっとまとめてほしい。
- 12 黒板の字が汚いので読めない。話がわかりづらい。授業を時間内に終わる気がさらさらない。
- 13 もっとクリアな発音で講義して欲しい。アーとかウーとか聞き取りにくい。
- 14 テスト、レポートが多い。
- 15 講義に遅れてきて、終了時間も延びてしまうのだけは辞めて欲しかった。
- 16 どの教師の方もそうですが、代返に対して甘い。

語 学 科 目

○昼間コース

(良い点)

- 1 学生の反応を見ながらの授業で、私はとても楽しかった。相談にのってもらえて嬉しかった。
- 2 T先生は英語だけでなく、人生についてのアドバイスをくれた。時々、ハッとするような言葉があり、すべての面において最高の授業でした。
- 3 先生の授業は英語力を高めるのに役に立った。興味の幅も広がりました。ありがとうございます。今度オフィスに英語学習についていろいろお聞きしに行きたいので、よろしくお願いします。
- 4 必ずあてられるという恐怖感があったが、そのおかげで語学はある程度身に付きやすかった。
- 5 留学生と接する機会となったのでとても良かったと思います。
- 6 テキストの内容が適切でデザインがよかった点も学習する上で良かったと思う。

(改善を望む点)

- 1 先生2人の連携がなっていなかった。
- 2 2人の教官（日本人とネイティブ）の連携をきちんととってほしい。
- 3 自由に発言できる雰囲気になりにくかったと思う。
- 4 記事は最近のニュース、話題から選んだほうが良いと思います。日本にも伝えられているニュースが英語でどう表現されているかに興味があります。
- 5 もっと大きな声でゆっくりと話して欲しい、授業の進み具合もゆっくりして欲しい。学生とのコミュニケーションをとってほしい。
- 6 一回の講義で使用するプリントの分量を少なめにして、その分、内容を詳しくするというのはいかがですか？新聞を使うなら大事な文章のみピックアップすると良いと思います。
- 7 テキストが最悪、TOEFLなんかのを使ってほしい。
- 8 学生への熱意が少ない。（学生側にも問題があるが）。
- 9 内容が難しすぎた。ついていくのがやっとだった。
- 10 コンピュータの調整に時間が取られたり、教師の準備不足が目立った。
- 11 宿題が多すぎた。小テストが多過ぎる。

○夜間主コース

(良い点)

- 1 生徒に気を使って授業を進めているところが良かった。
- 2 先生ご自身、毎回一生懸命私達の知的興味へとつなげようと講義をがんばってくださったことを、感謝しております。ありがとうございました。

- 3 珍しく自主的に積極的な態度で行える授業でおもしろかった。いい経験になったと思います。
- 4 非常に授業の進め方が良かった。英語に興味がわいてくる授業だった。
- 5 その気になれば一人でも学習できそう。教師がすることは、教科書以外の+ α だと思う。
- 6 新しいやり方を大いに取り入れていて、大変良かった。

実 技 科 目

(良い点)

- 1 軽スポーツをとってよかったです。楽しかったです。

(改善を望む点)

- 1 カリキュラムの変更が多い。
- 2 レクリエーションをもっと増やした方がいいと思います。1年生のときはなかったの。
- 3 試合時間が短い、練習にもっとミニゲームをいれた方がいい。
- 4 人数が多いために第1希望どおりの種目に行けなく、全体的に楽しくなかった。
- 5 体操する時間が長すぎる。あと内容にサッカー入れて。
- 6 履習者が多く、シラバス通りに行かなかったことに非常に不満だった。

Ⅲ 講 義 内 容

講 義 科 目

○昼間コース

(改善を望む点)

- 1 授業の目的を明確にして欲しい。
- 2 先生がどの講義においても、もう少し明確な目標、目的などをわかりやすく学生に示してほしい。
- 3 何を教えたのか解らない。説明がいい加減な時がある。
- 4 I don't wanna do the same one as freshman's classroom!! I wanna do more sophisticated subject.
- 5 大学の講義にはふさわしくない内容だった。全く論理的ではなかったから。
- 6 去年とほとんど講義が変わらなかった。
- 7 同じような話を何度も繰り返している上に、その話が良くわからないしつまらない。
- 8 あっちこっちに話が飛躍してわかりにくかったの、もっと話の焦点をしぼって。
- 9 思いつきで話すのをやめてほしい。何が結局言いたいのかわからない。
- 10 タイムリーなトピックを取り入れてほしかった。
- *11 科目名と内容が一致しない。

- 12 シラバスの内容と講義名のくい違いがひどい。
- 13 講義内容が難しく、宿題も難しすぎる、しゃべるのが早かった。

○夜間主コース

(良い点)

- 1 すごく分かりやすい授業でした。内容が難しくても私達に分かりやすい身近な例題を用いて説明してくださったので、とてもわかりやすかったです。
- 2 今やっている内容が、日本の今の時代にピッタリなのでおもしろいです。
- 3 とてもためになる講義。実生活に活かせそうです。もっと聞きたかったです。ご苦労様でした。
- 4 判例や余談などの説明がとても楽しかった。そのおかげで無理なく知識に裏づけができた。声もはっきり聞こえて良かった。

(改善を望む点)

- 1 少し専門過ぎて理解できなかった。

語 学 科 目

○昼間コース

(良い点)

- 1 興味を持たせるように積極的に話しかけていたのは良かったと思う。
- 2 先生の話は、知的関心を高めてくれるもので、貴重で重要な教養として身についた。興味深い話が多かった。定期テストがないのも良い。
- 3 私達の意見などを積極的に聞いてくれたこと（授業に関して）。
- 4 本当に英語の学ぶためのいいきかいだった。楽しくて勉強になりました。役に立った。
- *5 今までのこの大学で受けた英語の中で最も充実していました。分かりやすく、ためになり、何よりもおもしろい授業でした。このような授業をもっと増やして欲しいです。
- 6 普段気にもとめなかった事を深く教えてくれた。
- 7 単なる英語の学習だけではなく、興味深い内容だった。
- 8 英語の文章を読むための様々な方法を教えてもらい役に立った。
- 9 表現の細かい違い等を丁寧に教えてくれた。
- 10 英語の訳し方を細かく指導してくれたので、より日本語らしく訳せるようになった。
- 11 直訳では無く、内容に合わせて適当な訳をすることに慣れたのでとても良かったです。
- 12 興味のもてるテキストの内容だった。
- 13 テキストの内容だけでなく、知的関心を高めてくれる話をしてくれたので良い勉強になった。

- 14 ヒアリングが主であったが、聞くコツなどを教えてもらい大変役に立った。
- 15 プレゼンテーションはいやだったけど、やって良かった。
- 16 英語を話す機会を与えてくれたのは本当にプラスだった。もっともっと増やしてみても… speakingだけのクラスにしてもよいと思う。Speechとかもおこなっては…。
- 17 前期でListening重視、後期でReading重視だったので非常にバランスが良い。
- 18 英語もこのようなやり方だと苦手でも興味をもつことができるのでとても良かったです。こういう授業をもっとやってほしいです。
- 19 生徒に文を作らせる機会が多く、考える力が養われた。
- 20 TOEFLのテキストに沿って学習の仕方を丁寧に教えてくれたのでとても良かった、小テストもとても役立った。これからも続けてほしい。
- 21 英語だけでなく日本語も学んだような気がして良かった。教科書の内容が難しかった。
- 22 身近な話題を取り混ぜながら授業をしてくれたのが良かった。
- *23 英語を学ぶということには、それ以外の知識も必要なのですね。今まで受験英語しか知らなかった私にとって、とても興味深い授業でした。
- 24 文化的差異に対する関心を高めてくれたこと。
- 25 言語だけでなく習慣や考えの違いなど経験を話してくれたところが良かった。
- 26 アメリカとイギリスの文化、言語の違いなどとても興味深かった。
- 27 アメリカの新聞を使って、違う文化に触れながら英語の授業が出来た。
- 28 映画をつかった講義形式はとっつきやすく興味を引かれました、2年次も同じ先生の講義を受けたいです。
- 29 英語と比べて2年間という短い期間しかない仏語でしたが、先生の授業のおかげでとても興味を持てたし、文法より語法を重視した点も大変やりやすかったと思います。ありがとうございました。
- 30 先生の仏語の授業が一番好きでした。その場で覚える時間をくれるのでテスト前はとても助かります。又、CMや歌で仏語が流れたり商品などに使われていると教えてくれるので興味が増しました。2年間ありがとうございました。
- 31 中国の習慣や出来事についてたくさん話をしてくれたのでおもしろかった。授業だけでなく雑談を入れてくれるのであまり疲れなかった。
- 32 中国語と日本語の微妙なずれがもたらした失敗談等がとてもおもしろかったし、中国語の理解に役立った。
- 33 私は韓国語がこんなに好きになるとは、はじめ思っても見ませんでした。授業は本当にわかりやすいし、よいと思います。あえて言うなら、以前何回かやったように、机をまるくしてやった方が歌いやすいし、会話練習もしやすいと思います。あと個人的にはもっと歌を紹介して欲しいです。

- 34 授業以外の先生の話がおもしろかった。社会の話とかが興味深かった。
- 35 授業以外の余談もあったが、興味深いものも多く、うけた授業の中で1番おもしろい。正直授業内容は難しくきつかったが、力がついたような実感があった。
- 36 友人がたくさんできる授業内容でとてもよかったです。

(改善を望む点)

- 1 教科書は買ったからには使用して欲しい。使用しないなら買わせないで欲しい。
- 2 教科書がつまらぬ。
- 3 話の内容があちこちへ移り混乱したのもっと体系的にして欲しい。
- 4 授業が単調過ぎて飽きてしまった。興味を持たせる工夫をして欲しい。
- 5 授業が予習の答え合せをするだけで単調すぎる。また発言者に得点を与えるということもやめてほしい。内気な生徒にはつらいと思う。
- 6 説明を英語で言われてもわからないので、説明は日本語でしてほしい。
- 7 説明だけして、黒板に書かないこともあったので、なるべく黒板に残すようにしてほしい。授業での説明などはまずまずおもしろかった。
- 8 授業のペースが速く、理解する前に進んでしまったのもうちょっと詳しく、ゆっくり進めてほしいところです。
- 9 授業内容が濃くてうけていて楽しかったが、テキストが難解なため苦勞した。せめて構文が本文のないよう、どちらか簡単にして欲しかった。
- 10 一回に予習をする量が多すぎて、他の講義は予習に支障をきたすことがあった。また、教師が自分のペースで進めていたため、クラスの大部分が理解できていなくても進んでしまい混乱した。そして、予習でわからないところでも「なぜわからない？」など叱責され、非常に困惑した。
- 11 もっと実用的な会話を教えて欲しかった。自分達で話すだけでは、のびないと思う。
- 12 「読む書く」より「聴く話す」に力を入れているのはこれからの時代必要かも知れないが、度が過ぎる。
- 13 後期になってシラバスの内容と違う授業になったので残念だった。

○夜間主コース

(良い点)

- 1 今までのような、単に訳だけをする授業と違い好感の持てる授業だった。
- 2 授業が面白かった。いろいろな角度から問題を提供してくれた。
- 3 このような会話重視の授業を主体とした内容は、会話力、ヒアリング力の向上に即つながるため、とても勉強になりました。(文法的な授業よりとても興味をもてました)。

IV 成績評価

○夜間主コース

(良い点)

- 1 レポートに毎回きちんと評価してくれた。

(改善を望む点)

- 1 テストを行なった場合、答案が返却されないこともある。今後の学習にも使いたないので、できれば返却していただきたい。
- *2 テストの採点基準、模範解答を公表すべし。
- 3 テストなどの模範解答が長すぎる。あれだけの要点について時間内に解答することは困難で、模範解答を基準に採点すると採点は辛くなる。解答の解説としては最高であるが、求める解答の質を下げてほしい。
- 4 すべての科目のテスト結果を発表し、答案を返却して欲しい。
- 5 全科目のレポート、テストの点数の公開。
- 6 成績評価の方法を詳しく教えて下さい。
- 7 評価基準を明らかにして欲しい。
- 8 教授の気まぐれな評価や曖昧な成績基準をやめてもらいたい。
- 9 英語は教官毎に厳しさが違う。真面目に出席している人が損をする評価方法はやめて。
- 10 合格不合格の早期告知。
- 11 なぜ不可なのか説明して欲しい。
- 12 もっと厳しくしても良い。筆記試験だけでなくレポートなど多くすると勉強になる。
- *13 カンニングと代返等は厳しく取り締まって欲しい。
- 14 追試制度を取り入れて欲しい（できれば不可能な理由を学生に知らせる）。

V ゼミナール

○昼間コース

(満足な点)

- 1 大学生活の中で一番勉強になった。
- 2 ちょー満足してます。先生の授業も興味深いし、ゼミ生も楽しい。
- 3 先生がおもしろい。内容もおもしろい。
- 4 先生がとても熱心で信頼できる人なので。
- 5 先生が一生懸命指導してくれるので。
- 6 先生が親切で説明も解りやすい。
- 7 ゼミのメンバーも楽しく、討論内容も興味のあるものだから。
- 8 興味をどんどん引き出してくれるから。
- 9 関心の高い話をたくさんしてくれて満足。
- 10 実際の授業よりも知的関心を高めてくれるし知識の増え方もすごい。やることはハードだが

充実しているから。

- 11 ゼミ生一人一人のやる気が反映されて良い。
- 12 しっかり学習できる環境を作ってくれたから。

(不満な点)

- 1 先生がいやだ。
- 2 内容が低レベル。やる気のない学生が多い。人数が多すぎる(20人)。
- 3 ゼミに活気が全くない、やっている内容ばかりか雰囲気にも面白みを感じられない。
- 4 ゼミ生も悪いのかもしれませんが、ゼミとして機能が全くゼロです。先生は僕らに何を望み何を自身は目指しているのかさっぱりわかりません。とにかく、もっとたくさんのことを吸収したいのに、そういうふうには持っていきってくれません。最悪です。
- 5 もう少し体系的にそして、目的を明確にして身になる自分のためになる内容をやってほしい。
- 6 シラバスの内容と違う。
- 7 予想していたものととても違う。実践的なものだと思ったのに、理論ばかり。
- 8 第1希望のゼミではないので、自分が勉強したかった事と少し内容が違うから。
- 9 教師が何を基準にゼミ生を選んだのか明確でない。誰よりも熱意があり、自主的な事前の勉強をしていた友人が落ちたのは納得できない。

○夜間主コース

(満足な点)

- 1 先生が素晴らしい。
- 2 現在のゼミは討論も活発で、勉強になることが多い。人間関係も悪くない。

(不満な点)

- 1 教官の趣味の時間のような感じで、自分の学科にあまり関係ない。
- 2 楽だけど手を抜けるので勉強にならないかも。
- 3 夜間主のゼミ数は少なすぎると思う。
- 4 いい先生が夜間でゼミを開かない。
- 5 夜間の人に昼間のゼミに入る道を聞いてほしい。
- 6 昼間のゼミも夜間のゼミも共通で、とりたいゼミをとれるようにできればよいと思う(夜間の学生が昼のゼミをとっても単位に加算できるということです)。
- 7 ゼミに関して学生側が教官を選べるようにして頂きたい。
- 8 マンツーマンで行ったほうが能率いいと思った。